

2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要

事業名：共創による新しい価値の創造 カarbonニュートラルの先にあるCo-ベネフィット型未来都市に向けて

提案者名：大阪府阪南市

取組内容の概要：農空間や海浜空間といった地域資源を活かし、カーボンニュートラルの取組を通じて様々なCo-ベネフィット（恩恵）を創出することで、関係・交流人口を増やし、消費の拡大につなげる。環境にやさしいまちに集まった人々が、健康でウェルビーイング（持続的幸福感）を感じられる取組を推進し、持続可能で好循環な地域づくりの実現を図る。

経済



課題：デジタルを軸とした域内交流の循環

- 「株式会社漁師鮮度」によるサイバーマルシェ・都市圏向け地魚販路の拡大、新たな雇用の確保
- 関係・交流人口拡大推進事業
 - ・デジタル田園都市国家構想を踏まえ、サテライトオフィスの誘致、テレワーク環境の改善
 - ・豊かな海洋資源を活用したビーチワーケーションの促進
- 地域金融機関（池田泉州銀行等）を軸とした域内活性化を目的とするESGプラットフォームの構築
- 大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラムを活用した実証実験（デマンド交通）

【経済面の相乗効果】

地域ブランドの確立等を通じたシビックプライドの醸成

【社会面の相乗効果】

食育等の推進による域内消費の拡大

三側面をつなぐ統合的取組

お茶とアマモから始まる カーボンニュートラル！ 「はんなん・Co-ベネフィット」創出プロジェクト

陸と海からカーボンニュートラルを実現

- ・遊休農地をお茶畑に転換しグリーンカーボンを推進
- ・アマモ場（漁場）再生によるブルーカーボンの推進
- ・環境教育推進の拠点整備

Co-ベネフィット創出により、新たな消費や交流人口を拡大

- ・お茶の栽培や漁場の再生にあわせ、新たな地域ブランドを確立
- ・陸や海で体験型コト消費の機会を拡大し阪南ファンを拡大

阪南に集まる人々のゆとりある時間（生活）を創出

- ・「お茶のある暮らし」をキーワードにした市民の健康づくりを推進
- ・漁場の再生や体験型コト消費の拡大等を通じた新たな雇用の創出
- ・ゆとりある時間（生活）の実現に向けた、テレワークステーション、遊休施設を活用したサテライトオフィスなどサードプレイスの整備

- 「太平洋セメント」などと連携し、アマモ場再生の実証事業
- ゼロカーボンシティ宣言の取組推進
 - 里山：お茶グリーンカーボン推進事業（伊藤園）
 - 里海：アマモ場再生ブルーカーボン推進事業
- 環境保全事業×海洋教育などの環境教育推進（セブンイレブン記念財団・株式会社漁師鮮度）

課題：カーボンニュートラルの実現・農地の保全・魚庭の海の再生

環境

(アマモ場)

【環境面の相乗効果】

脱炭素や魚庭の海の再生を通じた地産地消の推進

【経済面の相乗効果】

経済活動を通じたカーボンニュートラルの推進



社会

課題：健康寿命の延伸・地域コミュニティの充実

- 茶畑運営、茶摘み、茶作りなど、お茶を軸にした健康づくり事業
 - ・グリーン（健康）サポーター育成
 - ・健康セミナーの開催、活躍の場づくり
- 「伊藤園」等企業連携によるフレイル対策、認知症予防など健康寿命延伸を目的とした検証研究事業
- 「大阪ガス」「村川学園」との連携による地産地消を中心とした健康増進メニューの開発・食品ロス削減のための食育事業の展開
- 関西国際空港から20分立地を活かしたプロモーション展開による定住・移住の促進

【環境面の相乗効果】

環境保護活動を契機とした多様なコミュニティの創出

【社会面の相乗効果】

地域住民が主体になった持続的な環境保護活動の実施

(茶畑)

